

環境省がまとめた「環境報告ガイドライン～持続可能な社会をめざして～（2007年版）」（平成19年6月）によると、「環境報告書とは、その名称や環境以外の分野に関する情報の記載の有無並びに公表媒体に関わらず、事業者が事業活動における環境負荷及び環境配慮等の取組状況に関する説明責任を果たし、ステークホルダーの判断に影響を与える有用な情報を提供するとともに、環境コミュニケーションを促進するためのものです」。本学も、この取組の一環として、2006年度から環境報告書を発行してきています。このたび三年目を迎え、ここに完成することができました。関係各位に厚くお礼を申し上げます。

ところで、「環境コミュニケーション」とは何を意味するのでしょうか。

平成13年5月の『環境白書』（環境大臣・地球環境問題担当）によると、それは、「持続可能な社会の構築に向けて、個人、行政、企業、民間非営利団体といった各主体間のパートナーシップを確立するために、環境負荷や環境保全活動等に関する情報を一方的に提供するだけでなく、利害関係者の意見を聴き、討議することにより、互いの理解と納得を深めていくこと」という意味で用いられています（下線部は引用者）。この意味での環境コミュニケーションを、この報告書の内容をきっかけとして、ぜひ進めていきたいものです。本学が行う全学会議も、本報告書本文で述べるように、環境コミュニケーションを築く一環に位置づいています。その意味で、今後も有効に働くように工夫していきます。

環境コミュニケーションを活発にしていくためにも、わたしは、「環境リテラシー」の側面を付け加えておきたいと思います。この場合の「リテラシー」は、基礎的な情報理解の能力を意味しますが、思い切って基礎的教養としてもよいでしょう。つまり、水質汚濁からみる本学の状況、大気汚染への関与の実態、温室効果ガス排出、ゴミの排出などの実態やデータを基礎的に理解する力を、リテラシーとして捉えておきます。

マイカーの通学・通勤や喫煙問題など、少し工夫と努力をして、一人ひとりがこれを積み重ねていけば、結果として抑止力、環境改善力につながる可能性を秘めています。要は、身近な他者への配慮、多数のまだ見ぬ他者たちへの配慮ができる市民にわたしたちがどう成長していくか、です。私も、かつてはヘビースモーカーに入る喫煙者でしたが、約28年前に思い切って禁煙しました。

自動車運転も（子どもが自動車事故の被害にあったので）約25年前に止めました。いずれも目標を設けて力んで実施したわけではありません。止めることに揺れながらも、「止めるならいまいかない」と自分に言い聞かせてそうしました。

これまで習慣にしてきた何か一つを、まず環境のために切り替えてみることをしてはいかがでしょうか。若い世代の方がたは、多様なアイデアとセンスで環境コミュニケーションを築き出す可能性を持っています。様々な年代の方々が協力し合って、「環境にとっても配慮した愛知教育大学」と言われるほどに本学を高めていただきたいと願っています。この報告書がその足場となりますように。

（注記）

「環境白書」については、

URL:<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/> を参照しました。



総務担当理事 折出 健二



国立大学法人 愛知教育大学

〒448-8542

愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

保健環境センター・財務部施設課

電話 : 0566-26-2190(保健環境センター)

0566-26-2159(施設課)

E-mail : kankyo-h@aecc.aichi-edu.ac.jp



この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。